HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	恋愛行動と恋愛心理の多様性に関する比較社会生態学的検討 ： 社会環境要因と個人要因の交互作用効果 [論文内容及び審査の要旨]
Author(s)	山田, 順子
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(文学)
Dissertation Number	甲第13247号
Issue Date	2018-06-29
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/71502
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/4.0/
Type	doctoral thesis
File Information	Junko_Yamada_review.pdf, 審査の要旨

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（文学）　　氏名：　山田　順子

主査　教　授　結　城　雅　樹
審査委員　副査　准教授　瀧　本　彩　加
副査　教　授　安　達　真由美

学位論文題名
恋愛行動と恋愛心理の多様性に関する比較社会生態学的検討：
社会環境要因と個人要因の交互作用効果

・当該研究領域における本論文の研究成果

本論文は、人間の恋愛関係における行動と心理の多様性の原因を探究したものである。特に、心理学を始めとする社会行動研究諸領域で近年急速に注目を集めつつある社会生態学的アプローチの導入により、恋愛行動と心理が、関係流動性という社会環境変数、配偶価値という個人特性変数、そしてその両者の組み合わせにより影響されることを示したものである。こうした理論的視点と実証的知見は極めて高い新規性を持ち、広範な研究領域への波及効果を持つ。ここでは以下の三点を挙げる。

第一は、恋愛行動に関する進化心理学研究に対する理論的拡張である。この領域の従来の研究の多くは、人間の恋愛行動には人類普遍的なパターンがあるとの前提を置いてきた。それらが行動主体である個人に対していかに利得をもたらすかという観点で集約することで、一貫性のある理論を構築し、同じ観点を採用する行動生態学や進化人類学など周辺諸領域との学際的協働を可能にしてきた。しかし、近年の比較文化データの蓄積により、恋愛行動と心理にはシステマティックな地域間多様性があることが見いだされ始め、その説明が求められていた。

本論文は、この問題に対して、人間は社会環境への適応マシンであるという進化心理学の基本的な発想は維持しつつ、適応環境としての社会環境の特性には多様性があるとの前提から、それが恋愛行動と心理の多様性を生み出すメカニズムを追究した。加えて、従来の進化心理学でも扱われていた個人特性の効果を取り上げ、それが社会環境特性の効果とどのような交互作用を生み出すかを予測する新たな視点を示した。恋愛心理・行動の社会差と個人差を統一的に説明できる理論は類例がなく、当該領域に対して大きな貢献となる。

第二の貢献は、対人心理の文化心理学研究に対する理論的拡張である。文化心理学はこれまで、様々な社会に住む人々の間に存在する心理・行動の差異を発見し、それぞれの社会の中で歴史的に育まれ継承されてきた思想的伝統、すなわち「文化」の違いから説明することを試みてきた。しかしこうした文化心理学のアプローチには二つの問題があった。第一は、心の多様性の説明原理が、個別の地域で優勢な思想的伝統の特異性を強調するものであり、文化差を生み出す共通の普遍的要因を特定できないという理論的一般性の限界である。第二は、特に恋愛心理・行動の文化差について、個人主義－集団主義を始めとする従来の主流な文化軸を用いた説明が難しかった点である。

これに対して本論文が採用した社会生態学的アプローチでは、人間の行動と心理を、様々な特性を持つ社会環境下で自己利得を最大化するための適応方略と捉える。これに基づくと、類似の特性を持つ社会では類似の心理・行動が見られるだろうという形で、これまで説明が難しかった恋愛心理・行動の文化差を、統一的な理論で説明することが可能になる。適応論をメタ理論として仮説モデルを構築することにより、文化心理学を、進化心理学や行動生態学、さらには比較社会学など、人間科学・社会科学諸領域と接合することが可能となるだろう。

第三は、現実社会への応用可能性である。社会生態学的アプローチの基本的な発想は、人間が能動的かつ集合的に作り上げた社会環境が転じて人間行動に影響を与えるという、人間と社会の双方向の影響プロセスである。これに基づけば、社会の流動化に伴う人々の心と行動の変化を捉えることは、彼らが相互作用することで生み出される社会環境のダイナミックな変化を予測することにもつながるだろう。また、様々な統計が示すように、現在、日本社会における恋愛・婚姻関係は徐々に流動化し、恋愛パートナーや結婚相手は個人が能動的に探しださなければならなくなっている。こうした状況で望ましいパートナーを見つけ、関係を維持するためには、旧来とは異なる行動方略が求められるだろう。本論文が示した恋愛関係流動性の高い社会における行動と心理に関する知見は、競争的な恋愛関係市場において有効な戦略的な行動について、理論的・実証的根拠を与えるだろう。

本論文の学問的意義は、すでに広く認められている。研究 2-1 は『実験社会心理学』誌に掲載された後、日本グループダイナミックス学会より 2015 年度優秀論文賞を受賞し、また研究 2-2 は国際学術誌『Evolutionary Psychology』に査読付きで掲載されている。

一方、審査を通じて、実証研究の結果の考察、および限界と解決の方向性の議論が十全ではない部分が見られるなど、本論文のいくつかの問題点も指摘された。しかしそれは本論文の価値を損なうものとは認められなかった。

・学位授与に関する委員会の所見

以上の審査結果から、本審査委員会は全会一致で本学位申請論文が博士（文学）の学位を授与するにふさわしいものであるとの結論に達した。